

私たち近隣ケアグループの活動

松が丘 2 丁目 佐分和恵

私は近隣ケアグループに参加させていただいて 7 年になりますが、長い人は 20 年近く活動してみえます。

このグループは、小地域において声掛けや見守りを通して、75 歳以上の方を支える活動が主な内容です。

各務原市社会福祉協議会のボランティアグループとして登録され、活動費を社会福祉協議会と自治会からいただいています。

私が近隣ケアに参加したきっかけは民生委員からの声掛けでした。その時は、仕事を辞め自宅で実母を介護していました。玄関先での近所の方々からの「こんにちは」「お元気ですか?」「気をつけてね」などの普通の会話に、私自身一呼吸つくことができました。それからの活動していく中で、生前、母がずいぶんご近所の方にお世話になっていた事が分かりました。老いてから我が家に越してきたので、知り合いもない中、近所の方々が、長寿会に誘って仲間に入れてくださったり、催しのある日時も忘れていないか、声をかけていただいたりしていました。改めてこの活動は、地域では大切な事なんだと、母を通して痛感しました。

現在、グループのリーダーをしています。

私の町内は、年 3 回ケア員がそれぞれ担当の方の家に、A4 サイズで、老眼鏡をかけなくてもいいように大きい絵と文で、手書きのメッセージカードと日用品、又は、お菓子類を持って訪問します。メッセージカードは、「もらってうれしかったので、取ってある。」と言っていただく方もありました。喜んでいただける物はトイレットペーパーで、失敗した物はお菓子類の中にキャラメルを入れた事でした。

若い頃はゆとりがなく、地域の事を考える余裕は全くと言う程なかったです。名古屋からこの松が丘に移り住んで 36 年たち、夫婦だけの生活になり、ようやく、近隣ケアの活動を通して、少し年配の方とも気軽に声をかけられるようになりました。

またゆとりができて近所を見回してみると、いい地域だなと思います。積んである不燃物の籠を並べる仕事は、力のないものには難しいですが、当番でなくても自然に代わりにやってやる人がいます。次のゴミ当番はこの人だけど、大変だから飛ばして次の人に回そうかななどと、道端の 2, 3 人の立ち話で、人を気遣うことが、決まっていくこともあります。「近隣ケアだ」「ボランティアだ」と力まなくても、自然に助け合えることが理想です。それでもその輪から外れ

る人がいないように、近隣ケア活動は意識して進めることが必要だと思っています。

高齢化は近隣ケア員にも目立ち始めました。若い方にどう引き継ぐかが課題です。

家族以外のご近所どうしが支え合い、日々の暮らしが元気で安心して過ごせたら最高ですね！！

つつじが丘 8 丁目 大柴美鈴

近隣ケアボランティアは、平成元年に地域福祉ネットワーク確立の趣旨で、各務原市から要請されてできました。

私は友人に誘われて平成 3 年から活動に参加しました。

現在つつじが丘 8 丁目には 12 名のボランティア、ケアの対象者は 75 歳以上、70 歳以上独居の方としており 40 名おられます。それぞれのボランティアが担当する人を決め、役割も分担して活動しています。

① 花壇作り

交流の場づくりとして、近隣ケアグループ員と対象者と共同で、花壇づくりを始めました。

6 月と 10 月に市から頂いた花の苗を、8 丁目の南公園の花壇に植えます。

見守りもかねてこの催しの予定表を配って歩きます。そして土づくり、1 週間後に苗植え、作業後には花壇のそばにブルーシートを敷き、お茶とお菓子でおしゃべりをします。この活動は男性が中心となって助かります。また皆さんから趣味・社会情勢等、幅の広いお話も聞けて、いろいろ学ばせて頂いています。

6 月には市社協から振込み詐欺のアンケートを頼まれていたので、これを話題にしました。20 人の参加者で、2 人が「詐欺の電話を受けたことがある。」と言いました。他人事ではないと思えました。

またこの作業は、「ケアしてもらおう」ではなくて「自分も人の役に立ちたい」という人の参加もあります。

② 誕生日の訪問

みなさんのお誕生日にお菓子を持って訪問しています。本人はもちろん家族のみなさんも誕生日を知って喜んで頂いています。

③ 赤飯作り

敬老の日に合わせて、赤飯を作り配っています。毎年おいしいと言っただけ、お礼の電話も頂きます。

④ 暑中見舞いと年賀状

高齢者で書の得意な方をお願いしていました。毎年素晴らしい文章を考えてくださいましたが、辞退されたので、去年から近隣ケアの人で、絵手紙が描ける人をお願いしています。とてもほのぼのとした賀状を出すことができます。

⑤ 交流会

去年は皆さんに知って頂きたくて、「ささえあいの家」を会場に交流会をしました。ホールと違って、狭いのが幸いして、お互い打ち解けあって、出身地について話をしてもらったのですが、戦争体験にまで話が発展しました。今まで聞けなかったことを知ることができました。

⑥ 民生委員を交えて、高齢者の情報共有をし、見守りに生かします。

いつもお年寄りの動向には関心をもつようになっています。あるとき屋根や雨どいの修理の業者が回ってきました。その人の持っている書類に見守り対象者の名前があることに気づきました。さっそくその人を担当する近隣ケア員に連絡し、不要な工事でないか確認してもらいました。

独居の方を訪問したのですが、お留守で再度訪問したら、いつも乗って見える自転車はあったのですがインターホンを鳴らしても出てこられなかったので、電話をしたら「2階にいた。」とのことでした。お会いして、「最近めまいがすると聞いていたので、お元気でよかったです。」と言ったら涙を流して「ありがとう。」と何度も言われました。

別の独居の方は訪問したら、開口一番、「朝いつも、10時にはこの窓を開けておきますのでよろしく。」と家われました。不安な気持ちで生活してみえることを痛感しました。

私たちボランティアも高齢化しつつあります。今後ボランティア同士も、ご近所同士見守りながら活動していきたいと思います。